

～香港における廃棄物削減に向けた対応～

◇ 2050 年までのカーボンニュートラル達成を目指す香港

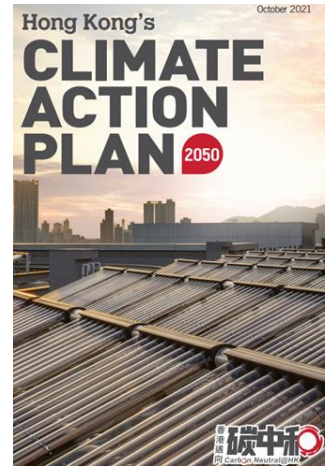
- ・大湾区開発計画においても「環境保護と持続可能な開発」は重要なテーマの一つとなっています。
- ・そうした中、香港政府は 2021 年に「香港気候行動計画 2050」を公表し、2050 年までにカーボンニュートラル達成を目標に掲げています。今回はその計画の戦略の 1 つである廃棄物の削減について紹介します。

◇ 政府による廃棄物発電施設の開発

- ・香港政府の廃棄物削減に向けた具体策の 1 つ目として、「廃棄物発電施設の開発推進」が挙げられます。
- ・土地が狭い香港では、廃棄物を処分するための埋立地不足が深刻化しているため、先進的な技術で温室効果ガスの排出を抑制しながら廃棄物を焼却処分することで、熱エネルギーを電力へ変換する施設の開発に期待が寄せられています。現在、廃棄物発電の第 1 号施設が 2025 年の稼働に向け建設が進んでおり、増設により 2035 年までに埋立処理からの脱却を目指しています。
- ・また、廃棄物処理については大湾区各都市との共同開発も協議されています。実現すれば、コスト低減だけでなく中国本土への技術移転にも繋がると期待されています。

◇ ゴミの排出抑制とリサイクルは徐々に浸透する？

- ・具体策の 2 つ目は、「ゴミの排出抑制」と「リサイクル」です。
- ・2024 年 4 月に開始されたストローやドリンクカップ等の使い捨てプラスチック製品の規制は、導入当初は行政側の説明不足もあり、事業者側も十分に対応できていない印象でしたが、のちに規制対象が明確化されたことで徐々に浸透していきました。一方で、2023 年に導入予定だったゴミ袋の有料化は、住民の理解が深まらなかったことに加え、飲食店や清掃業者からも不満が多く寄せられた結果、試験運用後に無期限の延期が決定されました。
- ・リサイクルについては、以前から専用ゴミ箱は一部で設置されていたものの、義務化には至っておらず浸透していませんでした。最近では回収拠点の増強や、利用状況に応じてポイントが付与され、回収拠点に隣接する自動販売機で日用品や食料品などと交換できるポイント制度が導入されるなど、市民の意識向上を図っています。
- ・上記のような取組状況は、日本人からするとやや準備不足な印象を持ちますが、その反面、トライ & エラーによりスピーディーに発展させていく柔軟な姿勢には、学ぶべき点もあると感じます。



「香港気候行動計画 2050」では廃棄物削減のほか、ネットゼロ発電・省エネ・グリーンビルディング、グリーン輸送の 4 つの戦略が掲げられている。



ランタオ島の南沖で建設が進む
廃棄物発電施設「L. PARK1」
出所：香港政府新聞網



IoT を活用したゴミの分別収集ステーション。

出所：筆者撮影